

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-10-1 六川ビル4階

☎03-3264-6881 fax03-3264-6882

雇用者の36.2%は非正規雇用者

総務省が13日発表した4～6月期の労働力調査（詳細集計）によると、非正規雇用で働く人は1881万人となり、四半期ベースで2002年の集計開始以来最多となった。役員を除いた雇用者全体の数も過去4番目の多さだったが、正社員は減った。総務省は「景気対策の効果などで雇用は生まれたが、非正規に流れているのが現状」と分析している。



役員を除いた雇用者数は5198万人。このうち非正規が1881万人で、36.2%を占めた。前年同期から1.7ポイント上昇した。正社員は3317万人で、前年同期から53万人減った。

7月に総務省が発表した就業構造基本調査では2012年の非正規社員は2043万人だったものの、労働力調査とは集計の対象

や方法が違うため、数字が異なっていた。

非正規のうち特に増えているのが、賃金水準が低いパート・アルバイトだ。前年同期から増えた非正規106万人のうち約7割を占めた。

企業の多くは景気回復による労働力不足をひとまず人件費負担の軽い非正規で補っているようだ。

【2013/8/14付
日本経済新聞 朝刊】

図にあるように、非正規雇用者としてパート・アルバイト、派遣社員、契約社員・嘱託を集計しています。

業種によって、この比率は大きく変わると考えられます。企業としては人材を増やそうと考える時、正社員を採用するか？パートや契約社員を採用するのか？分かれるところです。

この調査からは、正社員を増やそうとする企業は少ないことになります。

正規と非正規の処遇の差は、賃金（賞与を含む）、労働契約期間

の有無、福利厚生、教育訓練などです。

同一企業内で、このような差を設ける意味が本当にあるのか？ということが問われてくると思います。

正規、非正規という枠組みに関係なく、会社への貢献度が問題になるはずで

貢献度を評価したうえで、どのように処遇をして従業員に報いるかを検討していく必要があります。

非正規雇用者の中でも、正規雇用を望む人もいれば、責任を負いたくない等の理由で、非正規を望む人がいます。

誰もが正社員になりたいわけではありません。また、現時点では希望しなくてもライフステージの変化によって考えが変わることもあります。

従業員の気持ちの変化、考えの変化に敏感に気づくことで不満を抱かせなくすることができません。

処遇、評価、報酬において不満を無くし、意欲的に働ける環境づくりが特に重要になっています。